

2025年万博基本構想検討会議
第1回 理念・事業展開部会 議事録

【開催概要】

- 1 開催日時 平成28年7月14日（木） 14時00分～16時00分
- 2 場 所 大阪府庁本館2階 第3委員会室
- 3 出席委員

<有識者>

荒川委員、江原委員、澤田委員、渋谷委員、増田委員、玉井委員

<行政>

伊吹委員（代理出席：井上博覧会推進室長）、田代委員（代理出席：中口副町長）、
田中委員（代理出席：井上経済戦略局長）、田村委員、辻委員（代理出席：宮崎副市長）

<経済界>

出野委員（代理出席：南部副参与）、児玉委員（代理出席：堤部長）、齊藤委員

【議事次第】

- (1) 万博について
- (2) 基本理念、名称、テーマ、サブテーマについて
- (3) 事業展開について
- (4) その他

【配布資料】

- 資料 1 : 当面の検討スケジュール
- 資料 2 : 澤田部会長提出資料
- 資料 3 : 21世紀の国際博覧会に関する基礎データ
- 資料 4 : 第1回検討会議で出された意見と論点
- 資料5-1 : 建畠哲委員からいただいたご意見
- 資料5-2 : 中谷委員提出資料
- 資料5-3 : 森下委員提出資料

【内容】

○事務局

定刻となりましたので、只今から理念・事業展開部会第1回会議を開催いたします。私、本日、司会進行させていただきます大阪府企画室副理事の露口でございます。どうぞよろしく申し上げます。

最初に本会議を主催いたします大阪府を代表いたしまして、政策企画部企画室長よりご挨拶をさせていただきたいと思っております。

○事務局（吉田企画室長）

大阪府の企画室長の吉田と申します。よろしくお願いいたします。本来でしたら政策企画部の山口部長がご挨拶させていただくところですが、所用で外出しております、途中から参加させていただきますので、私の方からご挨拶させていただきます。

本日は、委員の皆さま方、お忙しい中、お集まりいただきまして、第1回の理念・事業展開部会にご出席いただきありがとうございます。本部会は、基本理念、テーマ、サブテーマ、事業展開など、万博の根幹というのは中身について、ご議論いただく場でございます。

今回は第1回目ということで、まずは基本理念、テーマ、サブテーマを中心に委員の皆さま方から様々なご意見を頂戴し、お時間があれば事業展開についても議論を進めていただければと思っております。今日いただいたご意見、残念ながらご欠席の委員からもご意見いただきながら7月29日の第2回全体会議での議論に繋げていきたいと思っております。

本日は限られた時間ではございますが、どうぞ、闊達なご議論よろしくお願いいたします。以上です。

○事務局

続きまして、この本部会についてご説明をさせていただきたいと思っております。この部会につきましては、先月30日に開催されました第1回2025年万博基本構想検討会議におきまして、出席委員の皆さまのご賛同を得まして設置することとなっております。その二つの部会の内のひとつ、理念・事業展開部会ということでございます。

部会長には秋山座長の方から澤田委員が指名をされたというところでございます。会議終了後に座長、部会長とご相談をしまして委員の皆さまのご同意を得て、本日配布いたしました部会メンバー表に掲げる委員をもちまして本部会を設置するということさせていただきます。

本日の出席者についてでございますけれども、お手元の配席図に代えさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

続きまして、資料の確認をさせていただきます。座って進めさせていただきます。まずは、議事次第、メンバー表、配席図の次に、資料1としまして、当面の検討スケジュール、資料2としまして、澤田部会長の提出資料でございます。資料3でございます。21世紀の国際博覧会に関する基礎データ、A3の資料です。資料4は同じくA3の第1回検討会議で出された意見と論点ということでございます。資料5-1、建畠委員からいただきましたご意見、資料5-2、中谷委員からの提出資料、資料5-3、が森下委員からの提出

資料ということでございます。不足している資料はございませんでしょうか。よろしいでしょうか。資料4、5-1、5-2、5-3につきましては、今後、議論を行う上での素材ということで、配布をさせていただいております。資料5-1、5-2、5-3は、本日ご欠席の森下委員、建畠委員、中谷委員からご意見をいただいたものでございます。第1回検討会議後いただいたご意見、今回の部会でのご議論いただいた意見も含めまして、逐次、資料4の方に追加反映をさせていただきまして、共有させていただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

次に今後の検討スケジュールでございます。事務局の方から説明させていただきます。

○事務局

それでは資料1、当面の検討スケジュールをご覧ください。A3版横長の資料です。この資料は当面の検討スケジュールについて、全体会議とこの度設置いたしました、二つの部会との関係やそれぞれの部会で予定している議題内容について、委員の先生全体で共有できるように整理したものです。当面8月までに全体会と二つの部会をそれぞれ2回ずつ開催を予定しております。各回の部会開催後には、秋山座長、それから整備等部会長に、この理念部会の結果についてご報告し、それぞれの部会間に出された意見を共有すると共に、直後に開催される全体会議に報告し、更に議論を深めていただく予定としております。

なお、こちらに整理をさせていただきました議題、日程等につきましては、今後の部会での議論の進捗状況や他国の立候補の状況などにより、変更の可能性があるものとしてご覧いただけたらと存じます。委員の皆さまには、ご多忙の中、非常に集中的にご意見をいただくこととなりますが、よろしくお願いいたします。以上です。

○事務局

次に会議の公開についてでございますけれども、この部会は検討会議と同様、大阪府の会議の公開に関する指針に準じて公開ということでさせていただきたいと思っております。

以上で事務局からの説明は終わらせていただきます。ここからの進行は、澤田部会長によろしくお願いいたします。

○澤田部会長

部会長を務めさせていただきます澤田でございます。何分、不慣れな進行になろうかと思いますが、皆様のご協力をいただいて、この検討会議で多様な意見を提示していただきたいと思っております。この会議は、様々な意見と提案をフラットにテーブルに並べるのですが、博覧会で各国がいろんな提案をフラットに提示することと同じような会議になることを期待しておりますし、そうなるように、努めさせていただきます。ただ、私は博覧会については、専門家なんですけど、今回のテーマの「健康」ということになると、門外漢でございますので、健康のことについての知見のある方で、国際博覧会でございますので、

国際的に健康というものが、今、どういうことがあって、どういう方向になっているのかということに関して知見のある方に、是非とも一緒にこの部会をマネジメントしていただきたいと思っております。皆様のご賛同をいただければ、隣に座っておられます渋谷先生に副会長をお願いしたいと思います。渋谷先生はWHOで、ご活躍されていらっしゃる経歴がございますので、是非ともそのあたりの知見もいただきながら部会が進められたらありがたいと思っておりますが、皆さん、いかがでございましょうか。

ありがとうございます。それでは渋谷先生と二人三脚で、どちらが引っ張っていかれるのかっていうと、私が引っ張っていかれるような気もしますが、是非ともよろしく願いしたいと思います。渋谷先生にご挨拶申し上げます。

○渋谷副会長

澤田部長から副会長に指名いただきました、東京大学の渋谷と申します。誠に僭越ながら副会長として、部長を補佐しながら、お互いに二人三脚でやって行きますし、部長不在の時には、代わって部会の議事も進めて参りますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

○澤田部長

ありがとうございます。この会議では、あちらに事務局の方も並んでおりますが、事務局の方からも意見を、皆さんに披露した方がいいので、後で振りますので、意見を言っただけだと思っておりますが、そういった進行でも、皆さんよろしいでしょうか。

ありがとうございます。では、そういった形で、なるべく多様な意見が活発に出るようになりたいと思っております。

では初めに、資料2を私の方からご説明をしていきたいと思っております。博覧会というものを議論する上での基本的な事項ということが、まとめておりますので、簡単にご説明をさせていただきます。お捲りいただいて、資料の2-1でございしますが、国際博覧会の歴史というものを簡単にまとめてございます。

1851年ロンドン万博が、国際博覧会の最初というふうに言われております。それまで、ヨーロッパ各国で産業見本市がかなり活発に行われておりまして、これは産業革命の影響でかなり産業が進んできたことが理由です。それを他の国を集めてやろうという構想を立てたのがロンドン万博です。これ以降、パリ、イギリス、ロンドンとパリが代わり開催をしていきます。

その最初のロンドン万博は、鉄とガラスによる建築、今はほとんど当たり前になっていますけども、近代的な建築を建築家ではなくパクストンという造園士が作ったりしていますが、異分野の人が新しい価値を創造していく仕掛けとしても出来ているわけです。ロンドン万博の2回目に徳川幕府が出展しまして、その次のパリでは、徳川幕府と薩摩と佐賀が共存する形で出ました。ひとつになって明治政府として出たのはウィーン万博が初めて

という風に、日本の明治維新前後の動乱もかなり影響しているということです。ベルの電話機がパリで出ました、エッフェル塔ができたものこの万博でございまして、1889年でございます。90年になりますと、エスカレーターなど、アメリカはこの頃まだ工業国としては一流国でなかったのです、博覧会を利用して、このエスカレーターはオーチスだったかと思いますが、PRプロモーションが行われました。その後、たくさん毎年のように博覧会が開かれるんですが、こうなりますと各国が悲鳴をあげて、ちょっとなんとかしてくれないかという議論が起こりまして、条約などで認定をしようという話があったんですが、1914年に第一次世界大戦が起こりましたので、そこで一旦そういう議論が中断するわけでありまして。それで最近私たちがよく耳にする国際博覧会条約が1928年に締結されまして、これが、私どもが今後、立候補していく国際博覧会条約の基本になったところでございます。

当初はかなり少ない国でやってたわけですが、今は100ヶ国を超えております。その最初はシカゴ万博、1933年から始まるわけですが、パリではゲルニカが出るとか、必ずしも産業技術だけではなくて、かなり広範な展開がされていきます。ニューヨークでは、ナイロンそれからテレビをGE、デュポンというところがかなり技術を出してきます。後半になりますと、いろいろと科学技術が出てくるわけですが、次のページを見ていただくと、1970年日本万博が出てまいります。このあたりになりますと、かなり科学技術主体となってくるわけですが、1964年、表の一番上にありますが、ニューヨーク大世界博覧会がありまして、ディズニーがイツ・スモール・ワールドをパビリオンとして制作して、そういったことにも使われたということです。それ以降、日本は日本万博、大阪ですね、それから沖縄、つくばの国際科学技術博覧会、そして大阪の花博、愛知万博まで、この50年間になんと5回もやっているのは、世界でも日本だけということございまして、かなり国際博覧会の活動に積極的に貢献しているというのが日本でございます。

今回の招致で非常に重要なのは、1994年のBIE総会決議でございまして、これは、1900年代に行われたヨーロッパの万博が軒並み失敗するんですね、それを受けて、博覧会を再度復活させようという議論が行われまして、科学技術だけを見せるのではなくて、地球的課題を議論する場にしようということが総会で決議されまして、その決議に従って開催された博覧会は2005年の愛知万博が初めてでございます。先ほど申し上げたように、リスボン、ハノーバーが軒並み失敗する中で、2005年の愛知万博は大成功しまして、BIEの総会で賛辞の決議をわざわざ出していただきました。日本が国際博覧会を復活させた国であるということです。それ以降、サラゴサ、上海、ミラノなど大きな博覧会があり、今後は17年、来年ですね、カザフスタンのアスタナという所で開かれます。それから20年はアラブ首長国連邦のドバイで開かれます。日本はすべての博覧会に最大規模のパビリオンを出展し続けているということでございます。それで次の資料でございまして、1994年のBIE総会決議というのはどういうものなのかということで、一言で言いますと、21世紀の国際博覧会は地球的課題解決の場へということになっているわけですが、一番下の博覧会のテーマですが、全ての国際博覧会は現代社会の本質的なテーマを持たなければならない。テー

マは、科学的、技術的、経済的進歩の現状と人間的、社会的な要求及び自然環境保護の必要性から諸問題を浮き彫りにするものでなければならないということで、科学技術がなくなつたというわけではないのですが、人間的、社会的な要求もきちっと語ろうということになっておりますし、それから前文の中に、最初に国際貢献が新たにかなりクローズアップされております。目的の中の4行目ですが、諸民族と諸国民の文化的なアイデンティティーに対する理解を深めるものに繋がらなければならない、これはかなり加盟国が増えてきて後進国が増えてきたという事情もあるんだらうというふうに思いますし、このあたりをどう理解して日本として新しい提案を出していくのかというのが、招致が成功するかしないかというところの非常に大きな分かれ目になるのであらうというふうに思っております。

次の資料が、ちょっと数が多く 2-3 でございますが、これがその元になった国際博覧会条約というもので、これに対して先ほどの決議が付加されるという形になっています。ポイントだけご説明しますが、元々は黄色いアンダーラインがあつたんですが、事務局の方がお金がないのでモノクロコピーになり分かりにくくなっています。第一の定義の2行目ですが、人類が利用することのできる手段又は人類の活動、ちょっと難しいこと言ってますが、その次の所に、進歩若しくはそれらの部門における将来の展望を示すもの、言ってみれば、人類の成果を持ち寄って見せるものというふうに定義されてたんですね。これに、先ほどの社会的な課題とか人類的な地球的な規模の課題とか考えましようということが付加されています。第3条登録博、それから第4条認定博というのがありますが、私どもが提案するのはこの第3条登録博で、6か月以内のものであり、5年に一度しかできませんというふうに規定されております。おめくりいただきまして、次のページでございます、6条ですね。国際博覧会の登録を受けるための申請ということで、これは締結国の政府、ここが一番オリンピックと違う所なんです、民間団体もしくは地方政府、今回でいえば大阪府では手を挙げられないということなんです。なので、あくまで日本政府として手を挙げるものであります。それから7条に、2つ以上の競合する場合には総会で決定するというふうに決められております。それから11条、参加の招請ということで、これは博覧会が決まった後に、開催国から各国に招請状を出すんですが、国家元首が国家元首に出すということになっておりまして、日本でいうと首相が各国の大統領なり首相に対してぜひとも参加してくださいと、正式な外交ルートで発せられるものであります。このあたりもオリンピックとはかなり違うものがございます。もう一枚おめくりいただきまして、12ページ目でございます。それぞれ政府代表を置かなければいけないということで、日本にも政府代表が決まっております。それからもう一枚おめくりいただきまして、26条国際博覧会事務局総会の構成ということで、各国の政府代表で総会というものが構成されます。だいたい年1回開かれています。総会における票は各国が1票持ってます。国連のように理事国はありませんので、すべての国が1票ずつ持っているということが、これが配慮しないといけないポイントだというふうに思っております。こういったところが、現状私どもが

招致をめざしている国際博覧会のレギュレーションということでございます。

それから2-4のページでございますが、これは私が作った資料ですが、去年、万国博覧会と人間の歴史という共著で作った資料でして、私が博覧会をやった経験の中から、社会と博覧会というものが共に変化をしているということ、実際に振り返ってみるとそれが見えてきたものですから、それを簡単にペーパーにまとめたものでございます。本来、現代の日本の博覧会は大阪万博から振り返るべきなんです、私は科学万博からだったので、ここからスタートしています。科学万博は85年なのですが、みなさんはなんとなく分かっていたかと思いますが、79年にジャパンアズ No.1 とか言われて、なんとなく日本が先進国になったのかみたいな、なんとなくみんなおっかなびっくり疑問を持ってたと思うんですが、85年の科学万博を契機に、科学技術で世界をリードするぞと国民全体が自信を持った博覧会だったと思います。下に出ております、83年にソニーが世界初のCDプレイヤーをつくったり、シビックのエンジンができたりですね、かなりそういったものが出てきたと思います。その後バブル経済がスタートするわけですが、90年ぐらいまでがバブルですね。地方博ブームが起こります。この時に、日本の未来は無限だみたいことや、日本の土地よりもアメリカの土地の方が安いぞみたいな、日本全部売ればアメリカ全部買えるみたいな話とか、経済が非常に豊かでそれをもっと謳歌した方がいいんじゃないかとか、それまで働き蜂だったものですから、日本人はもっと遊んだ方がいいみたいなことが、かなりメディアでも言われていた時代でもあります。地方博ブームというのは、政令指定都市が一斉に市制100周年を迎える時期だったんですね。またいくつかの博覧会は瀬戸大橋とか大きな公共事業が完成した記念ということで行われました。当然、バブルで地方行政の経済状況もよかったということがございます。その頂点で行われたのが大阪の花博でございまして、これはかなりの賑わいを見せたということでございます。90年から91年にバブルが崩壊するわけですが、テーマパークブームが起こっておりまして、今この中でも残っているのはハウステンボスと志摩スペイン村ぐらいでございまして、USJは後からできあがってくるわけですが、その後ジャパンエキスポという制度が92年から行われます。これはバブルの崩壊した後、地方でも小さな博覧会がいっぱい行われたんですね。それに対して企業から、もう少しちゃんと整理をしてほしいという要望が出まして、経済産業省が認定制度を作りましょうとジャパンエキスポというものが行われました。いってみれば国体のようなものですね。それが10回、10年間行われたのがジャパンエキスポです。なんとなく世の中としては豪華さより質がいい、豊かさがいいなあとか、うかれてるんじゃなくて、もうちょっと堅実なことしたいなあとか、世界からコピーするものがなくなったみたいな、そんなような時代でありましたが、一番下の方を見ていただくと、関空が94年に開港するわけですが、94年にyahooが操業しております。95年阪神・淡路大震災があるんですが、環境雑誌のソトコトが96年に、プリウスが97年、googleが98年、今の私どもの生活を支えている新しい企業がこのあたりにできてくるわけでございます。それで2001年以降、愛知万博に向けて、特にこのあたりから地球環境問題

がかなり叫ばれるようになりまして、愛知万博が環境博として実施されたといったような経緯でございます。そこまでが博覧会と世の中の流れをまとめさせていただいて、議論の少しの足しになればというところでございます。

資料の2-5でございますが、みなさまの議論を縛るつもりということでは全くなくて、私がこの部会で議論しなければならないこととか、ここに気を付けた方がいいんじゃないかなあということ、私の思いとして整理しております。3つありますが、一つ目は招致を成功させる開催理念とテーマということで、先ほどお話した1994年のBIE総会決議をどう理解して、それにどう提案するのか、なかなかいい提案だと言ってもらえるようなものを作らなければいけない。丸ポチ2つ目は、未来を見せるという博覧会から未来に挑戦する、未来を創り出す博覧会にしていかなければならないというふうには思っております。そういう意味で168ヶ国からの支持を得ないといけないということもあります。それから、渋谷先生がいらしたWHOを始め、国際機関からの支持と連帯が必要だろうと思っております。それから二つ目としては、次世代の大阪・関西・日本の発展に資する事業展開ということで、国際博覧会は国際貢献が中心、対外的にはそういうことでございますが、対内的には、当然それを使ってどう日本・関西・大阪が発展していくかということが重要でございますので、少子超高齢社会の日本の挑戦を博覧会に向けて加速していき、博覧会を単に見る場所ではなくて社会実験の場としてとらえて、新しい技術と仕組みを社会に実装して可視化する。なんとなく映像で理念的に見せるのではなくて、実際にそのものを作って持ち込む、それを使うということが重要だなあと思っております。前回もお話しましたが、愛知万博は延べでほしい2200万人ぐらい、リピーターを除くと実際1600万人ぐらい、ほしい国民の12%ぐらいが来ているわけですが、今回はもう少し目標が高いので、15%ぐらい来るとすると、社会変革の機会としては、大変すばらしい機会を提供することになりますので、ここをどう活用するのかということも、国内的には非常に重要な問題ではないかと思えます。

それから、国際社会からの期待を高めるということで、近い将来の国際社会が直面する課題解決に貢献するというのをきちっと出していくということ。それから日本は先ほどご案内したとおり5回もやっておりますので、どういう風に新しい国際博覧会というものを提示できるのか、といったことが海外から期待されているというふうに思われます。

それから最後の資料でございますが、これは後で渋谷先生に少し補足していただきたいわけですが、そういった意味で理念・テーマを考える時に、言葉の定義に共通の理解を持たないと議論が発散してしまいます。国際博覧会条約に基づきますので、健康というものに関して、WHOの憲章に従った理解というものが重要だろうと思っております。いろいろあるわけでございますが、前文の二つ目のカテゴリーの「健康とは」というところでございます。健康とは、病気でないとか、弱っていないとかいうことではなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態にある、ということで、スピリチュアルという言葉が使われていると思えますが、精神面が強調された決議もその後に出てお

りますが、このあたりを体の内側のことだけではなく、社会的なことも含めて「健康」というものはとらえるんだ、という概念でいけたらなあと思っておりますが、このあたり渋谷先生お願いします。

○渋谷副部長

このWHOの憲章は確か1946年に提唱されたものだと思いますが、やはり澤田部長がおっしゃったように、ポイントは「健康」というのは病気がないというだけではなくて、やはり包括的なもの、精神的にも、肉体的にも、社会的なものというのをまず打ち出したというのが大きいので、それが40年後の1986年にオタワ憲章というものをまたWHOが出したのですが、そこではさらに個人だけではなくて、コミュニティとかまちづくりも含めたものが健康には大事だということを強烈に打ち出したんですね。最近はさらにそれが進んで、むしろコミュニティだけではなくて、グローバルと。要するにこうした病気と闘うことから、まちづくり、コミュニティづくり、そしてグローバルという視点で、さきほど澤田部長が資料2-2で出したBIEの総会決議—、要するにハードな科学技術の見せ場から人間社会開発のソフトなものに移って、そしてさらに持続可能性とか地球規模のものを皆でシステムとして見ていこうという、世の中というか国際（聞き取れず）の流れと非常にマッチしたというか、また要するに先生がおっしゃったように、社会のそうした流れと万博というのは表裏一体の関係なのかなということで、やはり健康自体がそもそも病気がない、ではなくて、本当に個人においても包括的なものであって、そしてさらにその個人を取り巻く環境・コミュニティー・そしてさらに地球というものに移ってきた、ということで、まさに地球規模課題の大きなものの一つとして「健康」が定義されていると。それからもう一つ「well-being」という言葉はこれ「physical, mental and social well-being」という言葉がありますけれども、最近、well-beingというのは非常に注目される言葉—なかなか日本語に直しにくいのですけれども、well-beingというコンセプトがまた高齢化においても、単に長寿という言葉だけではなくて、well-beingというコンセプトがまた非常に注目されていることを一言だけ申し上げたいと思います。

○澤田部長

ありがとうございました。それで私からの説明はそこまででございますので、みなさんでここから色々な意見を提示していただきたいと思っておりますが、この資料3という基本構想試案がございますが、この前の会議ではペーパー1枚で事務局からご説明させていただきましたが、基本構想試案のどのあたりが今日の議論になるのかということを紹介して皆さんの意見を頂きたいと思っております。7ページ目の問題意識というものが示されております。大阪府がこれを提唱する上での問題意識ということで、21世紀の人類についてのどういう危機意識を持っているのかということで、人類の課題はどこにあるのかということをお示ししております。人口バランスの問題が崩れて格差が生まれている、それ

から病気も慢性疾患もありますし感染症の問題もあります。そういったことが、今までにかつてないほど健康の問題が危機になっているのではないかと示されており、それから、8ページ目には、人類社会の発展に貢献する新しい国際博覧会へということで、先ほどお話が出たように94年の決議にどのように対応していくのか、社会を変容させる新しい博覧会へということで、単に見る博覧会ではなくて、実際それに挑戦していくような博覧会がいろいろというご提案がされています。9ページ目は万博にふさわしい—なぜ大阪、関西なの？ということについて説明がされています。ライフサイエンス分野の先進地だということもあります。それからWHOの神戸センターもあるということもありますし、ちょうど2025年は阪神大震災から30年ということで、人類の健康を考える上で非常に良い機会なのではないだろうか、ということが出ております。それから基本理念—10ページ目に出ておりますが、2025年の意味ということが書いてあります。問題意識を一つの文章にまとめていますが、人類にとってもっとも重要な健康という根本的な問題に直面している、ということを日本から提唱しよう。実は国際博覧会として「健康」というテーマは、初めてなんです。なぜ「健康」なのかということは必ず質問が来るとお思いますので、それに対して日本はどのような課題意識を持っているかを提唱できるかどうか非常に重要なポイントだろうと思っております。その中では慢性疾患の話もありますし、グローバル化に伴う感染症の拡大とか、そういった人類の存在を脅かす大きな危機が訪れているのではないだろうか、ということ再度警鐘しようということございまして、そのために21世紀が、四半世紀を—1/4をあっという間に過ぎてしまった訳であります、その25年後、2050年に向かってこのテーマを掲げて再度見直してみようということが大阪府からのご提案で、「2025日本万国博覧会」ということで、括弧で「21 1/4日本万博」というのはそういった—21世紀を1/4過ぎた—この年だからこそ一度そういうことを振り返ろうということだろうと思っております。先ほどの表でご紹介したように、博覧会はだいたい都市の名前をつけることが多いのですが、日本は大阪のときに日本万博と言いましたので、その伝統を引き継ぐということと、単に大阪だけがやっているわけではなくて、日本が丸となるという意味で、「日本万博」とつけたらどうか、というご提案であります。12ページ目は「人類の健康・長寿への挑戦」ということで、挑戦といったような行動を示す言葉をつけるのは、おそらく初めてだろうと思っておりますので、なんとなくそれを考えようとか、持ち寄ろうということよりは、明らかにそれに向けて進化を前提としたということがあると思っております。それからサブテーマでございしますが、サブテーマというのはどう考えるかという問題がありますが、各国がどういう出展をすればいいんだという疑問へのフックがこのサブテーマになるんですね。そこで健康という話になりますと、後進国は「いや、うちは健康に色々問題あるけど、科学技術ってないのよ」とかですね、「提案することありません」って言われたときに、票が集まらないので、「いやいやそうではなくて、あなたの持っているスピリチュアルな文化がありますよね」と、「素晴らしい生活スタイルもございますよね」と。「先進国からまた後進国の生活を見て学ぶこともありますよね」

と、そういったように、こういうサブテーマであれば、私たちも出展できそうだといったようなフックを示すというのが、このサブテーマの大きな役割でございまして、そういう意味で言いますと、科学技術は当然、それからお祭りとか宗教も含めた文化の問題、それから生活システムの問題、それから当然、地球環境がしっかりしなきゃいけないということもございまして、かなり広がりがあって、実はこのサブテーマ一つ一つで一つの博覧会ができてしまうテーマなんです。なので、健康というテーマが今まで国際博覧会やった中で最も広いテーマなので、そこをしっかりとアピールしないと、2025年だから最も広いテーマを議論するんだということをしかり国際社会にアピールするということが大事ではないかというふうに思っております。それから、14ページ、15ページ目は開催概要でございまして、だいたいこういったことを行うということが示されております。事業展開についても具体的なことも示されておりますが、ここではご紹介しませんが、そういうことも含めて今日は色々ご意見いただければというふうに思っております。次の部会では今日の議論を踏まえつつ、具体的な事業展開についてのアイデアも含めてご意見いただきますが、今回は理念、テーマの部分で様々なご意見をたまわりたいというふうに思っております。すいませんちょっと長くなってしまいました。申し訳ございませんでした。みなさんからご意見いただければと思います。

どなたかご発言を。

では、増田さん、お願いします。

○増田委員

私は、前回の総会の時にサブテーマが抽象的で分かりにくいのではないかと発言したのですが、少し言葉足らずだったと反省しています。澤田さんのご説明でもありましたが、全体としてのバランスがよく取れていると思います。サブテーマが抽象的なほうが出展しやすいということも理解できました。ただ、この四つのサブテーマの中で、イメージしやすいものとイメージしにくいものがあると思います。1番目、2番目とかはイメージしやすいのですが、3番目の「安定した生活の実現」が、あまりにも大きな括りでイメージしにくい感じがします。ぱっと目にしたときに安定した生活という言葉から、収入や失業保険などの社会保障のイメージが湧いてしまいました。この「安定した生活の実現」の中には、街づくりやバリアフリーの問題、食とか運動習慣など全部含まれていると思います。ただ、他の3つのサブテーマと比べると漠然とした感じがします。夢洲の埋め立て地で、ゼロから作り出す博覧会なので、「健康づくりができる街づくり」というように具体性を持たせて、長寿社会のための街づくりをサブテーマにしてはどうでしょうか。緑あふれる環境にして、そこに歩きたくなる人に優しい柔らかな歩道があったり、体が不自由な人には電動車椅子や、玉井さんがご専門の歩行補助のロボットが助けたりとか。加えて、子どもがおもいきり外遊びができるような街づくりを目指すような、具体的なサブテーマを一言で入れられないかと感じました。以上です。

○澤田部会長

ありがとうございます。よりわかりやすいサブテーマの設定ということについてご意見をいただきました。

それでは同友会の齊藤委員、ご意見をお願いします。

○齊藤委員

意見というよりご質問をしたいのですが、2025年の時点で、それから未来の何年後を見据えたものを考えるのか、そのターゲットイヤーは一体いつにおくのか。2045年だと今からざっと30年後ぐらいの未来社会での共通する課題は何なのかとか、そういう視点からアプローチしていく必要がある。資料に書いてあることは今日時点で見ているようなイメージがしますので、議論するときにターゲットイヤーをみんなで共有化したほうが良いのではないかと思います。それが第1点目です。

第2点目は、例えば健康というところに飢えとか戦争とかテロとかですね、そういうようなテーマまで含めていいのかどうか。健康を広い概念でとらえると、そこまで入ると思うが、そうじゃなくて、もっと身近なものだよということにするのか、それによってだいぶ議論するテーマが違ってくるのではないかなという感じをしました。

それともう1つは次回の時に聞いた方がいいと思うのですが、試案の中でそこに泊まって何日間で健康になるという具体的なイメージがあるのですが、泊まる場所を万博の敷地の中で作ってもいいのですか。ホテルみたいなものです。その3つの質問をクリアにしておかないと次に私自身は進めないなと思いました。

○澤田部会長

ありがとうございます。3つのご質問をいただいておりますが、最後の質問について、おそらくBIEの規定で宿泊してはいけないという規定はないと思われれます。なので、おそらく可能ではないかと思いますが、管理の問題がいろいろとあるので、そこは検討が必要だろうと思います。

前の2つのターゲットイヤーとテーマをどの範囲でということについて、事務局の方からイメージがございましたらお願いします。

○事務局

むしろ我々の方からどの辺りをめざしたらいいのかというのをお聞きしたいのですが、おっしゃっているように2025年に開催する時にその時の課題というよりも将来を見据えて、2025年時点で人類共通の課題という形でやらないといけないと思っています。ただ、いつを目的にしたものにするのかというのは、我々も色々のご意見をいただければと思っていますし、現時点で非常に科学技術の進歩が早い中で2025年時点でいったい

どういう形になっているのか、我々はまだ勉強不足のところもありますので、教えていただければと思います。2つ目の「安定した社会の実現」に関してご提示ありました戦争とか平和とかいう部分についても、たしかに人類共通の課題というところに入ると思うのですが、そこまで万博というカテゴリーの中で含めていいのかどうか、我々の勉強不足のところであるので、ご指導いただけましたらと思っています。

○齊藤委員

ターゲットイヤーについて、なぜ質問したかという、これからの医療技術について、専門の先生にも教えてほしいのですが、今から10年後、20年後、30年後に、例えばiPSがどうなっているかなんて想像がつかない。私の問題意識は、今は死ぬ時代だけでも30年もしたらもしかしたら死ねない時代になっている。自分は死のうと思っても実は生かされてしまう。心臓を取り替えてもいいよとか、血管がボロボロになったら新しい血管を入れるとか、そういう時代がおそらくくるのではないかなと。その時に健康とか長寿というのはどういう意味があるのかなと考えてしまったわけです。本当に好きな時に死ぬのかなと。それがわからないとターゲットイヤーも決まらないのではないかと、そこで考えが行き詰まりました。

○渋谷副部長

いま世界の大きな開発目標には持続可能な開発目標（SDGs）というものがあるが、昨年の2015年に策定されて、それから15年後の2030年までにやらなければいけない世界全体、国連加盟国すべてがサインした開発目標があるのですが、その中の1つが「ユニバーサルヘルスカバレッジ」、すべての人に基本的なサービスを提供しましょうというものがある。この万博の加盟国が169国でかなりの国が開発途上国であると思いますが、15年後でもすべての人に基本的なサービスであるワクチンや母子保健とか、それさえも15年たってできるかどうかという議論をしている中で、おそらくiPSは日本とか一部が開発していくもので、世界的全体の議論としてはまだまだ基本的なワクチンとか母子保健とかあるいは基本的な高齢者対策とか全然進んでいない状況なので、むしろ日本のモデルを今あるものを出すだけでもすごくバリューがありますし、むしろいろんなそうした国々がどこを見ているかというテーマに日本を実際に見ているということがあるので、15年後に向けて日本がやるべきことというのは将来そのものを映すものですし、今やっていることを見せること自体もすごくバリューがあるなと思う。私自身、ターゲットイヤーというのは今から2025年を経て、そのプロセスなんだと個人的には思っています。

それから、2つめに齊藤委員がご質問された飢えや戦争やテロというのはまさに健康に関わります。そうした社会的安定がなければ健康というのはないのですが、実際に日本の外務省の基本的な政策の柱の1つに人間の安全保障という言葉がある。要するに国家安全保障と対になるヒューマンセキュリティというコンセプトがあるのですが、それは一人ひ

とり人間の生存を守りましょうという非常に崇高な政策の柱なのですが、それは緒方貞子さんとノーベル経済学賞を取ったインドのアマルティア・センという人が一緒に共同議長で2003年ごろに日本から国連に提出したのですが、その中でも健康は1つの非常に大きな柱になっています。ですから、健康の性格自体が全部を包含するわけではないですが、飢えとか戦争とかテロに対することから人間を守るというのが人間の安全保障であって、その中の1つの手段としてヘルスケアとか（聞き取れず）をやっていきましょうということで、外務省もグローバルヘルスというものを最近、非常に大きく進めているということなので、僕自身の考えとしては、ターゲットイヤーというのは今まさに日本がやっていることは世界中が見ていますし、これから日本がやろうということもまさに見ているということで、僕自身は、この万博というものはプロセスであって日本がリードしていくには非常にいいテーマだろうと。

それから2つ目に飢え、戦争というのはもちろん大事ですし、健康に直接に関わります。ただ、健康というアンブレラでいくと全部包含するというのは逆にフォーカスが難しくなるので、人間の安全保障という観点からはもちろん大事なんですけど、やはり今回の万博の中では関連はしていますが、一部としてはもちろん僕自身はやってもいいのかなという気がします、もちろん、全部健康というアンブレラでやってもなかなか難しいかなという気もします。ただ、人間の安全保障という日本政府が本当に押しているコンセプトですので、非常に大事なところかなと思います。それが防災とかにもかかりますし、本当に強靱な保険制度、システム、コミュニティというのは世界的なテーマにはなっているのが現状だと思っています。

○澤田部会長

ありがとうございます。荒川先生に死ねない世界はくるのだろうかということについてご意見をいただきたいと思います。

○荒川委員

齊藤委員のおっしゃったことはすごく当たっているといいますかね、医療がどんどん進化するに従って、逆に人間の命の尊厳とか、命の大切さが失われていく時代になってくると思うんですよね。例えば、臓器移植がそうですし、臓器移植に始まって、iPS細胞による再生とかができたり、クローン人間ができたり、そういったことになってくると命の代替えがきくような時代になってくる。そういう反省が起こる時期じゃないかなと思います、2025年というのは、iPS細胞は何十年かかかるとは思います、必ず臨床応用できてると思うので、その時にそういったものを本当に命の代償にしているのかということですよ。やはり自然に戻るということも非常に大事だと思います。寿命が来て命がなくなるとそれを子どもが見ていて悲しんで、非常に命の大切さを実感するという時代にもう一度戻らないといけないのではないかなというのが1つあると思います。

それともう1つは、人口がどんどん増えていっている中で、地球の中で人類が過剰に増えた場合に食糧危機とかいろいろな危機が起こってくるし、文化が進むことによってヒートアイランド現象も起こってきているということで、そういった問題と人間の幸せというのをどう整合性をとっていくのか。また、いまデジタル社会になっていますが、デジタル社会化することによる新しい病気がたぶん起こってくると思う。そういったものをもう一度アナログとどのように融合させるのかとか、そういったことが僕はターゲットイヤーのテーマになってくるのではないかと印象として感じています。

○澤田部会長

ありがとうございます。最近、SNS疲れという言葉もありますので、進めば進むほど逆のことも出てくるのだと思います。先程のご質問の戦争とか飢餓とかどの範囲までというのは、実際には博覧会の誘致が決まった後にプロGRESS会議という、計画の進捗についての説明など何回も国際会議をしなければならないのですが、その中で日本はテーマをどう考えているのかどこまで議論するのかなどを各国の政府代表がみんな集まって議論する場があるのです。その中でテーマをどう理解し、それぞれがどういうことをすべきかということがかなり行われて、博覧会は一般の人に見せることが非常に重要なのですが、同時に国際会議が行われて、これが理解を進め、活動を充進させるということがありますので、この段階で必ずしもこの範囲でしか議論してはいけないと特定しなくても大丈夫なのです。各国、いろいろな立場で健康というテーマで、うちはこうしようじゃないかということが出てきてもいいと思います。戦争をどう抑えるのかという議論が出てきても広がり感としてあって良いように思います。ただ、出展者によっていろいろな立場がありますので。

○渋谷副部会長

荒川先生が今おっしゃった最初の人間的なものにもどるというのは、今診断もだんだんAIのような自動診断というのは進みますし、お医者さんの役割というのは減ってくるのだと思いますが、だからこそ、ますますヒューマンタッチとか人間的なものというのは非常に大事になってくる。非常に進んだテクノロジーとあえて昔ながらの人間的なものというのは今後10年大きなテーマになる。そこをどう融合して、それをどう料理するか、共生するかというのは非常に面白いかなと思います。

○澤田部会長

ありがとうございます。どなたかご意見をいただける方はいますか。

○田村委員

行政側の委員ということになっておりますので、あんまり面白くもない話だろうと思うので、恐縮でございますが、2つばかり申し上げますと、前回の会議で非常に印象的だった

たことがありまして、それは、橋爪先生、溝畑先生、森下先生おっしゃってましたけど、みなさん、子どもの頃に非常にわくわくしたとか、血が騒いだとか、血湧き肉躍るとかそんな話があって、非常に元気が出る話でいいなと思います。

実は、私は、行政側の委員と言っておりますが、当時もう子どもではありませんで、すでに大阪府庁に就職しております、当時というのは、千里の大阪万博の時ですけど、丁度3年前ぐらいでして、もう必死になってですね、先輩方・上司の方が関連事業をやっておりましてね、胸に辞表を抱いて、必死の思いでやってた、そういう熱い時代を実は知っております。私自身もこの年になって、やはり血が騒ぐなあ、素晴らしい話やなあ、まずは思います。これは意見でもなんでもなく、感想であります。

2点ほど申し上げたいと思いますが、1点はですね、去年の国勢調査の結果で、全都道府県で高齢人口が15歳未満の人口を上回ったと、今、ターゲットイヤーというお話もありましたが、10年経ったらもっとすごいことになってるでしょうから、高齢化という問題をとらえ、あるいは死ぬに死ねない長寿という話もありました。この話というのは、非常に日本にとっては興味深い。さらに言うと、おそらく私どもはあまりよく知りませんが、東アジアの中国とか韓国とかそういった所はもうすごい高齢化が進むのでしょうし、どう対応するか、世界の国は非常に気にするテーマだろうと思いますので、テーマとして非常に素晴らしいと思います。一部の先進国では、非常に成功している事例もあるでしょうから、そういった先進国のみならず、色んな国で成功している事例を紹介しあうっていうのは、世界的にも非常にウケがいいのではと思ひまして、テーマは大賛成であります。

2点目に、ここから行政側委員らしい話になるんですが、実は千里万博の時は、万博関連事業という公共事業をかなりやりました。その後、パタッとインフラ投資がとまりまして、私は土木の技術屋でございますので、特に感じたのですが。やはり、ナショナルプロジェクトをやらないと、それを理由にして公共事業をやらないと、公共事業をなかなかできないなど。大阪・関西が関東に非常に立ち遅れている原因の一つでもあります。インフラが不十分であります。どう考えても。オリンピックで関東はますますインフラができますが、関西は立ち遅れています。

それで考えたのは、実は万博ではありませんが、関西国際空港だったわけですね。色んな意味で役に立っていると思いますが、関連事業を私も担当しましたんで、当時は多少ランクも上がってまして、色々やりましたが、当時初めの値段で2兆4千800億の関連事業をやりました。今回、こういう場で議論すべきことではないと思います。別の場で議論したらいいとは思いますが、せっかく日本の万博というナショナルプロジェクトをやる以上、関連公共投資を中心とした関連事業の計画をきっちりとまとめないといけないと思います。それは、日本全国から支援を受けるものやないといけないと思いますし、当然、関西全体から支援を受けるものでないといけないと思いますし、また、大阪府が主導するわけですから、大阪府域の全市町村がいいなど、これはいいなと思うようなもの、とりわけ、ここからいよいよ行政チックになるんですが、北高南低という言葉が大阪にはござい

まして、北の方は高く、南は低いということもあり、関西国際空港という非常に強いインフラもあるわけですので、遅れているという南の方もみんないいいなというような、そういった形の関連事業の計画を大阪府が中心になってまとめられるといいなと思います。たまたま、私は南の方の堺市の副市長でございますので、そんな意味で、こんなことも申しております。以上です。

○澤田部会長

ありがとうございました。愛知万博の時も関連事業として国のプロジェクト予算で博覧会会場の中で、例えば NEDO が先端的なロボットを会場の中にあちらこちらに置こうよということを行いました。そこまでに開発して、それを実際に実装して動かしたりです。他にも新しいエネルギーシステムで、残飯を使ってエネルギーを作り出そうとか、それも開発しそれを実際に動かしました。それも国の事業でやっておりましたので、博覧会というのは、そういうものを交ぜて、みんなが参加してやっていく、なおかつ見せるだけではなくて、実際の社会に役に立っていくものになっていくといいなあと思っております。

公共事業というと、愛知万博が、海上の森でやる時に宅地開発をするだろうとか言われて、BIE から愛知万博は地雷の上に乗っていると理解してほしいとか言われて、えらいことになったことを思い出します。先ほどおっしゃったように、日本・関西から支援される、みんながそうだなと言っていただけのようなことがすごく重要だろうと思われまので、そこはうまくバランスを大阪府、関西の方と国の方がうまく連携して計画をしていただければと思います。北高南低って初めて聞きましたが、僕は 90 年に世界リゾート博を和歌山でやって、丁度閑空ができてすぐだったんですけども、ものすごい人が来ました。あの時は、大阪の南の方も元気でいいなって印象を持っています。ぜひ頑張っていたいただきたいと思っておりますが。ありがとうございました。

次に玉井委員にお話しいただきたいんですが、玉井委員は上海万博で半年もかからずにロボットを作って、そのロボットの技術をベースに今介護ロボットを作られて、来年売り出されるということですが、博覧会でやった技術が社会に実装されていくという感覚を企業家もしくはベンチャーとしてどんな感じと期待をお持ちなのかを、少しご意見いただくと有難いのですが。

○玉井委員

玉井でございます。前回は出させていただいて、私なりにまとめてみたのですが、みなさんの意識と合っているかどうか確認させていただきたいのですが。

一つは背景として、地球の人口が増大している、あるいはその中の人口の比率ですね。お年寄りが増えて、若者が相対的に減っている。こういう背景があるかと思うんですね。それで起きている色んなよくないこと、人が幸せと感じられないこと、これを万博としてどう解決していくのかというところが、一つ大きな皆さんの考えておられるテーマかなと

思うんですね。簡単に言うと、お年寄りのために若者の負担がどんどん増えてきている。これは日本もそうですし、ヨーロッパもそうですし、ひょっとしたら、中国はじめアジアの国々でも近々こういうことが起こってくる。そうするとですね、当面はかなり格差が広がる社会になってくると思うんですね。そのため、若者の不満がつのっている、それがヨーロッパの方でいろんな形で社会問題として噴出しているかなと思うんですね。それで、若者が自分たちが例えば年金を納めましたと、それがお年寄りにどんどん消費されて、自分たちが年寄になった時には、自分たちには保障がないんじゃないかみたいな漠然たる不安があるかなと思うんですね。そのために今、特に日本でいきますと若者が元気がないといえますか、消費活動も盛んじゃないですし、なんとなく不安を感じて生活されている方が多いかなと思うんですね。ですから、今、健康とか長寿とかいうテーマですけども、簡単に言うと、お年寄りが万博を見に来てくれる確率も低いわけですから、若者に見に来ていただきたい。つまり、そこへ来たら、若者が自分たちの未来はこんなに明るんだよと、それを社会的に実装したり実験したりした場がそこにあると、それを見ていただくということかなと思うんですね。それで、どういうふうに解決していくかというのが、日本も世界も大きなテーマかと思うんですけども、日本だけじゃなくて世界的に私はいろんな方とお目にかかってお話しした中ではですね、やっぱり解決するのは最新のテクノロジーかということなんですね。その中にロボットのこともありますし、AI とかに代表するIT のこともありますし、あるいは再生医療みたいな先端医療のこともありますし、あるいはそこをゲノム解析とかして予防・先制医療に使おう、そういうことで医療費とかを抑制して、若者の負担を減らしていく。あるいは、お年寄りの健やかな終末期の生活を保障する、こういうことかと感じました。

それですね、この地といいますか、日本が世界に誇れることは、今でもそうなのですが、世界一安心な国なんですね。これは外へ行かれた方はよく分かるかと思うんですが、これだけ夜でも女の人一人で安心して歩ける国はない。これは相当な売りだと思うんですね。しかも、テクノロジーで何かを解決しようとしている、こういう取組みも、安易に移民に頼るのではなく、ロボットでなんとかしようという、こういう国もなかなか少ないんですよ。ですから、その辺に焦点を当てて、そこをみなさんにアピールすることが、わりかしいとこじゃないかなと私は考えました。たぶんみなさんのこの間議論したやつとたぶん同じことだと思うんですけど、ちょっと整理したらそんな感じかと思いました。

○澤田部会長

ありがとうございます。最新のテクノロジーを使って、未来を見せる。若者が未来に明るいと実感できて、何とか消費が盛り上がると、そうなるといいなということだと思います。テクノロジーが一つのポイントということですね。

続いてご意見をいただきたいのですが、いかがでございましょうか。テクノロジーの話が出たので、経済産業省からご意見をいただくと有難いのですが。

○伊吹委員（代理：井上室長）

今回初参加の経済産業省博覧会推進室長の井上と申します。博覧会全体の推進と同時に、さきほど澤田部会長からお話がありましたBIE・条約関連の日本国政府代表であります。技術関連のコメントではありませんが、テーマとか今後の事業展開を考えていくときに、今度国として手を挙げて、選挙になっていきますと、国際的なアクセプタンスをどうやって勝ち取っていくかが重要な課題であり、あまりにもコントラバーシャルな議論を喚起しないという観点からの検討も重要であります。要は、また、国内的な盛り上がりの形成という観点から、先ほど、田村委員からもワクワク感という発言がありましたが、企業とか個人の方々が自分もアイデアを出したいと思わせるものを作ることも重要。全体的な盛り上がりがないと、選挙にも勝てないというところもあります。今後、テーマを掘り下げて、事業展開も考えていくときには、そういう視点も加味していただきながら、考えていただければと思います。

○澤田部会長

ありがとうございました。みなさんに合意していただくテーマ設定というのは非常に重要かと思われまますので、参考になると思います。盛り上がりっていう意味では、実はBIEはものすごく地域の盛り上がり、政府が盛り上がっているのは分かるけど、本当にその国民は博覧会をやりたいんだろうかということ、BIEは結構気にして調査するんですね。そういう意味でいうと、こちらにいらっしゃる経済界の方も行政の方も、その辺についてどうなのか、少しご意見をいただけると。もしくは、こういうふうにしたら盛り上がるんじゃないかみたいな話を少しいただくと有難いなあとと思いますが、いかがでしょうか。どなたかいかがでしょうか。

○出野委員（代理：南部副参与）

関西経済連合会出野が今日欠席で代理の南部と申します。よろしく願いいたします。万博の話は松井知事がかなり情報発信されていることもあって、経済界の皆様の方も関心が高まってはきているのは確かです。実際に副会長を含めて今議論のなかで、ご意見としては出ては出まして、万博自体ができることは非常に有益で、うまくいくのであれば本当に望ましいであろうという総論的にみなさん賛成的なご意見としてはあります。ただその実現に向けてというところに関してというところでは、ここの議論ではなくて、もう一つの整備部会のほうの議論のことでちょっとさておきますが、テーマの部分に関して言いますと、この前の副会長とかのみなさま方のご意見としましても、常々検討会の段階からも申し上げておりますけども、大阪のことだけでなく、関西のことへ捉えなければいけない。一方では、今タイトルも日本万博ということで先ほどご説明あったのですが、日本ではなく、これは関西の万博ときちんと言わなきゃいけないのではないかと。そして、関西のブラ

ンディングとしての取組みとして言うべきだということで、日本万博という名称に関して
も反対というご意見もあつたりもしました。その部分で、関西としてはどうしていくのか
ということがきちんとなければいけないのではないかと。その位置付けというところでは、
大阪だけでなく、健康・長寿ということであれば、京都なり、神戸なりといったそういう
ところの連携ということもどうしていくのかということも当然大事ですし、その部分を見
据えるという意味での関西ということはどう話をしていくのかということがなければい
けない、ということはお意見としてもございました。あと、広域の部分のお話としまし
ても、健康・長寿というところのテーマで、フラットなご意見としても「そんなものに誰
が見に行きたいのか」、「そんなテーマを誰が見たいか」というところがありました。お金
を払って、一般の人が見に行くというので、健康・長寿という話ではないだろうという
ところで、ここのベースとしてのコンセプトとしての部分がもう少しメッセージとしては、
何かしら必要じゃないのかなというところはあるかと思えます。ジャンルとしての健康・
長寿ということはあると思うんですけども、先ほども齊藤委員の意見もありましたが、
長生きをしたところというところも、どうなるの、というところで、健康・長寿とい
うこと自体が目的ではなく、120歳まで生きていかと言われたら、別に生きたくない
という話で、健康であり、長寿になってどういうことがあるのかというところが示せる
ようなメッセージということがないとやはり共感性ということが生まれにくいんじゃない
かなということが一つあるかと思えます。

あと、その関西広域の部分も巻き込んでいくという、ちょっと政治的な意味でもあり
ますけども、健康・長寿に関しましては、やはり運動ということが当然欠かせないとい
うところで、スポーツの分野というところも、もう少し立たせていくということもある
のではないかな、というのは若干現場的、事務方レベルでの意見として、経済界全体
での話ではないのですが、そういう話もちょっとしております。それはご存じのよう
に、ワールドマスターズゲームが2021年に関西で行われますので、それは関西全
体での取組みとして行われますので、そのレガシーとして引き継いでいくという
ことにおいても、ここ2025年に万博といっても関西各地で行われるというよう
なストーリーという意味では、つなげやすい部分もありますし、その意味で
関西広域連合の皆さまに関しても話としてはしやすい部分というものはある
のではないかなということも若干議論しております。以上です。

○澤田部会長

ありがとうございました。大阪だけではなく、関西広域で是非とも盛り上がった
方がいいんじゃないかと、みなさんそう思っておられています。あとは、長寿とい
うのは目的ではないので、もう少し広がり感があったらいいんじゃないかという
ご意見だと思います。愛知万博ですね、自然の叡智というテーマが出たんです
が、これ実は非常に議論があつて、特にヨーロッパの国から理解されないとい
う議論があつたんですね。ヨーロッパは、叡智があるのは人間であつて、自然
には叡智がないと、もしも自然に叡智があれば、もう

とくに世の中は最大のいいバランスになってるはずだと。なってないということは、自然に叡智がないということだろうという議論が実はあったんですね。当初はそういう議論がかなりあって、自然の叡智というテーマは隠しちゃおうかみたいな話も、後ろにしちゃおうかみたいな話があったんです。でも始まってみると、世の中が逆に追いついてきて、非常に日本的な考え方だと、自然を見て、自然の中の一部であるということを感じて、その中に寄り添って行こうということが、日本の文化に対して注目も集まった時期でもありましたので、結果的には、非常に日本らしいテーマであり、人類を持続可能にする一つの大きな理念であるということで、当初心配されたようなヨーロッパの国からのハレーションはなくて、非常に日本らしい博覧会で環境博の考え方としてはいいんじゃないかと評価されたことがあります。ただ、一般に向けて、なかなか自然の叡智で来てくださいと言っても来ないので、やっぱりキッコロ、モリゾーや、こんなのあります、あんなのありますということで、最終的なプロモーションとしてはそういう形で出てくるのでありますが、理念はかなり、先ほど井上さんからもありましたが、かなりみなさんが乗りやすい、要するにやっぱり条約に基づく博覧会なので、各国が乗りやすいものにしておいて、最終的なところとして多くの人に楽しんでいただくというのは、次の議論になりますが、事業構造であったり、プロモーションをどうするかというのが、その次に出てくることだろうというふうには思っております。スポーツの話が出ましたので、また増田さんに振ってもよろしいでしょうか。

○増田委員

ありがとうございます。スポーツの前に、今のお話をうかがっていて、井上さんの「全体が盛り上がるような」ということに関しまして、去年見てきたミラノ万博の話をしてもよろしいでしょうか。ミラノ万博のテーマは「食」だったのですが、「食」にこだわってない国も多かったですね。ミラノらしいなと思ったのは、ミラノの出身の有名な画家、ジュゼッペ・アルチンボルドさんが野菜とか果物などを寄り合せたような絵を描かれています。それをモチーフにした巨大な人形が会場入口には並んだんです。「あっ食だ」ってすごくインパクトがあったんですね。でも実際に会場内でいろんなパビリオンに入ってみますと、観光物産展的なようなところも多くあって、ああ万博は来た人が楽しめればいいんだ、と思いました。スロヴェニア館では、美しい海岸をアピールするために白い砂があり、そこでみんなが遊べるようになっていました。また、有名なスキーの板のエランが展示してあって、全然食とは関係ないんですね。

ミラノ万博は細長い会場の中央に 2 キロの通路があり、そこにいろんな国のパビリオンがあったんですけども、日本館が一番奥にあったんです。たぶん澤田さんなんかも行かれていますと思うんですけども。そしたら、もう暑くて暑くて、私 7 月の半ばに行ったんですけども、もうビショビショで歩くのも大変で、あんまり歩くのことを考えてないんですね。屋根はありましたが、緑は少なく、もわっとした空気でした。けども、日本館に行

きましたら、70分待ちくらいの長蛇の列で、一番人気でした。人気の秘密は体験型だったことです。未来のレストランというのがありまして、200人くらいが30個くらいのテーブルにつけるようになっていました。そこに座ると手元の画面に四季折々のお料理などが並んで、お箸でパッと画面にタッチしますと、春のお料理だったら鶯が鳴いてきて、日本の春の懐石料理が並んで、夏になったら蝉が鳴いてって、そんな体験型、参加型というのがすごくよかったですと思いますので。

何もその一つのテーマにこだわることなく、みんなが万博は楽しめればいいんだっていうことを強く感じました。やっぱり万博は参加して楽しい、ただ、展示してあるだけではなくて、子どもから大人までがいっぱい体験していくってということが喜ばれるんだな、長蛇の列ができるんだなって、いうことを感じたのがミラノ万博でした。

またスポーツに関しては、歩くとか、後々色々発言させていただきたいと思います。ありがとうございます。

○澤田部会長

ありがとうございました。今おっしゃられたとおりで、体験型というのは最近のキーワードになっておりまして、かつては見るだけだったんですが、最近はとにかく体験をどうさせるのか、体験的理解っていうのは非常に重要で、やっぱり映像では伝わらないものが実際に身体感覚を得ると、また違うものが出てきますので、そこがすごく重要で、博覧会の一つの新しい形としてその辺をどう使うかというのがあるだろうなあということがございます。次回の部会にミラノはどういう工夫したのかとか、上海万博は何を工夫したのかということ、紹介した方がいいなと思ったので、資料を出しますが、ミラノで一番なるほどと思った工夫は、通常は後進国といいますか小さい国々はエリア別なんです。アフリカとかですね、地中海とかで、まとめちゃうんですね。おそらく初めてだと思いますが、コーヒーとかチョコレートとか、穀類などの食糧でパビリオンを分けてました。ふつう小さい国っていうのは物産になっちゃうんです。お金もないし、もう出ることで精いっぱいっていうことになって、そうならざるをえない、しょうがないところもあるんですが、少しでもテーマと出展を結び付けたい、という博覧会主催者側からのメッセージとしてそうになっていたということだと思っただけですね。結果、やっぱり物産になっちゃうんですが。また、必ずしも先進国だけが目立つことではない工夫として、敷地が全部縦長で、メインストリートに接する間口が全部同じなんです、京都の町みたいに。日本みたいにお金があるところだけが目立つ万博はやめようという一つのアンチテーゼでもあるわけですね。小さい国にも先進国の人は学ぶことがあるんじゃないかという仕掛けであったんじゃないかと、勝手に理解しています。そういった新しい博覧会、日本から考える新しい博覧会がここから生まれるといいなというふうには思っておりますが、日本からの話が出ましたので、遅れていらっしやいましたが、日本館といえば上海万博の日本館館長をやられました江原委員に少しその辺のあたりの話を。日本館は中国でどんなことがうけてよかったとか、テ

一マの話でも結構ですし。

○江原委員

日本館の話が出ましたけど、先ほど増田委員がおっしゃったように、暑さ対策は大変だったですね。おそらく大阪万博でも同じだと思います。日本館で一番気をつかったのは暑さ対策でした。大阪万博のテーマについてですが、ちょっと気になるところがあります。健康と長寿というのは実にはいいなと思うのですが、修飾している「人類の健康」の「人類の」とか、「長寿への挑戦」の「への挑戦」というのが、ややしっくりしないところがあると思いました。「人類の」というところを「我々の」に置き換えたかどうかと考えたわけです。なぜ「我々の」というふう考えたかという、「人類の」となると、あまりに大きすぎて身近な感じがしない、「我々の」とすると、大阪から健康を「発信する」という感じがしていいな、と思ったわけです。そんなことをあれこれ考えてみたのですが、最終的には、万博のテーマとしては、大きな世界を包むような言葉っていうのがあった方が落ち着くなという結論になったわけです。もう一つの「への挑戦」ですが、“長寿って挑戦するものなの？”って、しんどいなというイメージになってしまわないか、と思ったわけです。ただ、サブテーマのところで科学技術が強調されており、科学技術が長寿へ挑戦をするというふうに解釈すれば、「長寿への挑戦」は、実に言い得て妙だと思ったわけです。

参考までに、上海万博のテーマ設定では、検討委員会のほうで、まず、テーマの大筋を“都市”と決め、これをどう対外発信し、万博の上海誘致に結び付けてゆくかについて、大きな議論があったということです。その結果ですが、万博を招致するには、まず、外国人に理解してもらうのがよいということになり、英文でのスローガンの募集を始めたわけです。全国から約 7000 ほどが集まり、“better city, better life”に決まったということです。その中国語訳が、“都市、讓生活更美好”ですが、英文と中文には、意味的にニュアンスが少し異なります。直訳すると、“都市、生活をさらに豊かに”ということでしょうか。テーマ設定の段階で、誘致に向け、国内外を強く意識していたことがわかります。日本語では、この英文を直訳して、「よりよい都市、よりよい生活」となったわけです。

今回、テーマのことを考えていて、大阪万博のテーマを英文にしたらどういうふうになるのかな、と思ったのですが、大阪万博のテーマの英文化を考えておかないといけないんじゃないかと感じた次第です。人類の健康、長寿への挑戦ですが、二つ分かれています、一つに括って英文テーマにするのも、対外アピールなるのではと思いました。万博では、対外アピールが重要ですよ。健康と長寿がテーマの柱となっているわけですから、今最もやるべきことは、テーマの英文化ではないでしょうか。その必要性を切実に感じましたので、お話しさせていただきました。英文化は、サブテーマについても同じだと思います。サブテーマには、科学技術、文化や生活などのキーワードがありますね。メインテーマをより具体的に分かってもらうのが、サブテーマの役割であるとしたら、サブテーマの英文化も早いほうがいいと思います。上海万博にも、もちろん、サブテーマはありましたが、

私の印象では、あまり、強調されていなかったように思います。大阪万博では、これを強調し、アピールのある英文にしたらどうかと思います。そんなことを感じている次第です。また追々お話しさせていただければと思います。以上です。

○澤田部会長

はい、どうもありがとうございました。

それでは行政側の方で、どなたかご発言いただければ。

○辻委員（代理：和泉市宮崎副市長）

それでは、行政側の意見ってあまり面白くない意見になるかと思いますが。前回の全体会議に引き続きまして、市長の辻、欠席ということで、代理出席で参っております宮崎でございます。私も市町村、基礎自治体でございますので、日々ある意味市民さんと直接接している中で、今回いっているところの健康ですとか、長寿と、こういったところを市民さんの健康長寿を守るために、いかにどんなことができるかなということを地道に考えている、向き合っているところでございます。やっぱり市町村におりますと、特に思いませぬのが、ちょっと行政的で申しわけないんですけど、社会保障費がやはり毎年毎年すごく伸びておるといところが、一番気になるところでございまして、色々制度的な問題等々ございませぬけれど、先ほど玉井先生からありましたようにテクノロジーなどで若い者たちが自分らの未来は明るいねといったイメージを持ってかかっていくとか、そういったものをもって社会保障費の総額を下げていくのかと、そういったところのメッセージが出せるような博覧会であればいいなと思うところであります。テーマにつきましては有識者委員から貴重な意見が出ているところでございまして、私はあまり何も申し上げませんが、市町村としてはそういうところが一番気になるところでございまして、できましたら地に足がついたものであって、例えば市町村におけるまちづくりの将来を示唆するような内容ですとか、前回第1回するときにもお話が出ていたと思うのですが、広域という観点ですね。大阪で大阪のミュージアム構想というものを広くやっているんですけども、そういう広域的な要素を入れることによって、府内市町村関西全部となるのかもしれないけれども、巻き込んでいくような形にいただければ我々も協力とかいろいろなことのできるのではないかというふうに思っているのと、くしくも我々も南でありますし、岬町もそうだが、先程、田村副市長からありました北高南低問題は、我々も非常に感じておるところでございます。特に南部の方を、関連事業を云々という話もございませぬけれども、今回大阪市夢洲というところがとりあえず想定されているところでございませぬが、そういう南部地域にとってどんなメリットがあるのかなといったところで、我々南の自治体の方も諸手を挙げて賛成していけるのではないかなというふうに感じております。以上でございます。

○澤田部会長

どうもありがとうございました。ではもう一方、中口副町長にご意見いただければ。

○田代委員（代理：中口副町長）

岬町長の田代町長の代理で参った中口です。私自身町村長会の代表幹事ということで、うちの町長が選ばれているのですけれど、本日代理ということなので、誠に申し訳ないのですが、私個人の意見として四つのサブテーマについては私自身はかなり素晴らしいなという印象と、私自身、花博に町民を引率した経験がございまして、行政側として。やはり堺市の田村委員が言われたように盛り上げ、盛り上がりをどうするかということにかなり行政側として神経をつかいました。その中で岬町の日というのがタイムスケジュールで決められていまして、その岬町の日のために花博に似合う街のイメージ、岬町の場合はコーラスで行ったんですけども、そういう盛り上げの仕組みをやったということを経験してまして、そういうことを発言させていただきます。以上です。

○澤田部会長

ありがとうございます。盛り上がりは非常に重要でございますので、BIEが調査に来た時には皆さんで盛り上がっていただいて、好印象を持って帰っていただけるようになると思います。続きまして、経済界の方から大阪商工会議所さんはまだご発言いただいているので。

○児玉委員（代理：堤地域振興部長）

大阪商工会議所の堤でございます。常務の児玉の代理でまいりました。今出ました盛り上がりでございますが、私ども役員会等でこの話が出ました時、正直今の段階ではまだ盛り上がりがないというのが、残念ながら事実でございます。今後に期待するのかなということでございます。ただ経済界として経費とかそういうことの話とを別にしますと、総論としては開催できればいいなあというイメージかなと、そんなイメージを私は持っております。もちろん負担や経費ということは横においてということでございます。それと先程関経連さんから話が出ました関西全域での連携ですとか、スポーツの視点を盛り込む、これは大事なやはり視点であろうと、やはりオリンピックもございまして、ラグビーワールドカップもございまして、そういうところが日本全国が盛り上がってくるであろうということで、それはぜひとも加えることが必要なのだろうというような気がしています。すると1点だけご質問というか、もしわかれば教えていただきたいのですが、例えば70年の千里万博、それから90年の鶴見緑地での花博、大阪でこれまで2回大きな博覧会をしたわけですけども、次の2025年の博覧会に過去の博覧会から引き継ぐものとか、それが精神的なものなのかノウハウなのかわかりません。その辺は何かあるんでしょうか。それから、

逆に言うところの2025年の博覧会が次にどういう形で継続していくのか、もし時代も違いますが、テーマも違いますので、それはないんだということかもしれませんけれども、何か精神的に2025年に、70年から、90年から引き継いでくるものがあるのかどうか、それをちょっと教えていただけたらなという気がしています。以上です。

○澤田部会長

ありがとうございました。引き継ぐものがあるかどうかということで、大阪府、事務局の方で、引き継ぐものをお話いただけるとありがたいのですが。

○事務局

この万博で、この部会の中でご議論いただくことになると思うんですけども、どういった理念の継承をしていくのかといったことは一つ大きなところだと思っております。今回の健康長寿ということで我々も今様々な行政での取り組みを進めております。ライフサイエンスの振興、そういった部分も含めてこういった万博を契機にして産業振興とかまちづくり、そういったところにこの万博が継承していく、そういった形になればと思っております。先程の大阪万博や花博からこの2025年の万博にどう繋がっていくのかという部分でございますけれども、その辺は我々も過去の万博などから調査研究しながら、どういう繋がりがあるのかということも含めて、これから勉強させていただきたいというふうに思っております。

○澤田部会長

私は個人的にいうと、あちらこちらでおそらく万博といったときに一番反応が良いのは関西だと思います。続きが名古屋地域で、東京は冷たいと思います。どなたに聞いても関西の人は万博いいねえ、あの時はウキウキしたよと皆さんおっしゃるんですね。これはおそらく関西の特異体質だというふうに思っていますが、先程の話で盛り上がっていただいたり、積極的に参加していただくというのは、博覧会をやる意味の根本なんですね。そういう意味でいうと、遠巻きにしているのではなくて、いいねいいねと言って寄ってきてくれるというのが、言ってみれば70年万博、90年の大阪の花博の残した資産だと思うんですね。それをうまく引き継いで、また何十年後かにあの時はよかったねという少年が生まれるようなことになるのが、なかなか数値化はしにくいけれども、何かそういうものが大事なのではないかなというふうには思います。それと先程の総論賛成各論反対そうだろうと私も思います。ただ、どうしても今までの博覧会の形を見ていらしゃるのではないかなと思うんですね。今までの博覧会っていうのは先ほど日本は大阪万博以来何回もやりましたという話をしましたが、大阪万博をやる時にはその前の博覧会を見て、それをコピーしているんです。非常に日本はうまくコピーをしました。そのこともまた大阪がこうだったから、じゃあこうしよう、こうしよう大体毎回前のやつを真似るんですね。これがいいような

悪いようなどで、結果的にはステレオタイプの博覧会のイメージを作ってしまうんです。それじゃ博覧会は、さっきご質問がありました、そこで宿泊できるのって、そういうことできる可能性が高いんですね。こんなことができれば、経済界としてはいいんじゃないか、市民としてはいいんじゃないかという提案がどんどん出てくることで、きっと大阪府だけで考える博覧会ではなくて、大阪府が作るのはあくまでもステージを叩くだけで、そこで踊っていただいたり楽しんでいただくのは企業であつたり、市民であるので、そちらの方々が一生懸命考えて、おれにとって良い博覧会ってこうなんじゃないかというようなことが具体的に出てきて、それがプロジェクト化していくと、非常に世界にも稀な博覧会になると思いますし、僕はどちらかというそれが世界の語り継ぐようなものになって、万博をやるんだったら、日本に聞きに行けよ、といったような地域になってくれるといいなというふうには思っております。

あとご発言いただいていないのは大阪市さん、すいません。

○田中委員（代理：井上経済戦略局長）

大阪市経済戦略局長の井上と申します。本日は副市長の田中が出席できませんでしたので、代理でこちらの方にお邪魔をさせていただきます。各委員のみなさまから出ていたお話かと思えますけれども、大阪にもですね、大阪府さんが所管しております国際会議場とかそれから本市が所管をしておりますインテックス大阪というエキシビションホールがございますが、経済界の皆様とお話をしてありますと、やはり先進の産業技術やテクノロジーの産業見本市、あるいは技術見本市のようなものというのは、かなり高度なイベントがすでに開催されているのだらうと思えます。この万博ではなにを見せるのかということを考えますと、やはり先程から盛り上がりという言葉で一つくくられているかと思えますが、やはり B2B ではなくて、B2C、お越しになられる方々が楽しんでいただくという目線が、まず大変大切なものかなと思っております。それとテーマでございますけれども、12 ページに人類の健康・長寿への挑戦とそして、未来社会に向けた行動を呼びかけるというような非常に素晴らしいメッセージだなというふうに思えます。冒頭に斎藤委員から 2025 年からその先を見たときに何を見せるのかという問いかけがございましたけれども、やはり 2050 年になるのか 2060 年になるのか、人口の 3 分の 1 が 65 歳以上になるのは、まさしく日本だけでございまして、この日本がやはりそういう高齢社会の姿を見せて、そして、そこで当然発生するであろう様々な問題や精神的な不安があるのであれば、それを解決するような方法を示していくというのが、やはり先進国家であり、また最も早く高齢化する国の責任として私は考える視点ではないかなとは思っております。

それから 3 点目は、開催の仕方でございますけれども、やはり規模や何と言いますかマグネチュードだけを求めるのではなくて、やはり精神性に訴えるようなコンパクトという言葉がいいかとかは別としまして、合理的で機能的で、そして生産性の高いイベントを心がけると、そしてそれが関経連さんから関西という話がありましたけれども、やはり産業

界の皆様にとっては最終的には日々自分たちの製品を磨くことに取り組んでらっしゃるわけですから、ここはそういうことではなくて、エリアを盛り上げる一つのイベントだということでご参加いただくように皆様の協力を仰いでいくようにしたらよろしいのではないかなと考えておりました。

○澤田部会長

ご意見ありがとうございました。産業界という話でしたが、愛知万博で非常にうまくやったなというのは、トヨタさんで、大変なお金を出して一番デカかったんですが、世界中のディーラーを呼ぶんですね。世界中のディーラーに万博を見に来ませんかと言って、トップを呼んで万博を見せて、日本を観光させて、トヨタの戦略をプレゼンテーションして帰すという。そういうことがあると呼べるんですね。みんな行ってみたいと思うわけです。逆にいうと、行く理由がないとなかなか行けないというところもあって、そういう機会にうまくトヨタさんは使われていましたね。それからアメリカ館は、これもうまかったと思うんですが、デュポンさんが全部お金集めたんですけども、お金が集まりすぎて、すごく立派なVIPルームができてましたけれども、やはりそこもアメリカ企業が日本企業を呼んで、セールスプロモーションをする、トップセールスの場に使ってましたね。なのであまり語られない話なんですけど、パビリオンの演出ばかりが目に行きますけれども、実はそうではなくて、民間でVIPを呼んでくるということもありますし、それから参加国が必ずナショナルデーというのをやります。それは政府代表が必ず来て、かなりすごいセレモニーがあります。そこに政府代表だけじゃなくて、例えば保健の担当相とか、例えば経済産業省と一緒に呼んで、それをきっかけに博覧会を見て、日本で実際に実装されている社会をプレゼンテーションをして帰っていただくという機会にも使えるのではないかなというふうに思いますので、一般市民の方も企業の方も行政の方も、いろんな形で多面的な使い方を早目にプログラムしていけば、可能だと思うんですが、なんとなく私が見ていると、いつもそういうことってぎりぎりになってからやると間に合わなかったりしますので、できる限り早目に前向きにというか、前倒しというか、今までの博覧会の既成概念にとらわれないで、こんなことをあんなことをという研究みたいなことをいろんな側面から出すと、すごくいい博覧会になると思います。今は、何となくお金は出すばかりみたいな話になってますけど、そうではなくて十分にリターンを得られる博覧会というものがそこから開発できるのではないかなと思っておまして、先程レガシイという話がありましたが、私など博覧会のことをよく知る人間って、おそらく世界中で100人いると80人くらいまでは日本人なんです。こんな国は日本しかないのだから、うまく使う、要するに他の国は何十年に1度しか博覧館をやらないのが、先ほどお見せしたように90年代にものすごく博覧会が多かったものだから、博覧会とはなんだ、どう組み立てたらいいんだということを知っている人間がかなりいるんですね。そういうものをうまく使いながら、世界で最もうまい万博をつくりえるのが日本ではないかなというふうに、私は思っていて、私がここで

部会長をやっているのも、そういうことを期待されているのではないか、本来私はここではないんだろうと気もしながら、座っておりますが、そんなようなことを皆さんの話をおうかがいしながら、思いました、

大体時間も過ぎて参りましたが、次は事業展開でイメージということで、冒頭で博覧会とはそもそもこういう事業がありますと言ったような博覧会の基本的なフォーマットを整理してお話しさせていただきたいと思います。そういう側面でいうと、愛知万博、それから上海万博、ミラノ万博というのはどういう工夫を事業展開においてしたのかということもご紹介したいと思います。かなり特徴があります。日本はかなり実務的にやっていることがありますので、そのあたりを最初の15分くらいで次回はご紹介をしていきたいと思っております。あと少しご発言いただける時間が残っておりますが、ご発言いただける方がおられましたら。荒川委員、どうぞよろしくお願ひします。

○荒川委員

先程、江原委員から出ましたけれども、英文のテーマとしてどういうキャッチコピーにするのかということは非常に重要だと思うんです。そして、英文にしたときはもっとシンプルにした方がいいと思うんですよね。おそらく人類のとか挑戦のとかというのは外れると思うんですよね。例えば、well being well aging とか。そういうそれがいいとは限りませんけれども。そういうシンプルなもので、それが果たしてコンペにかけられるようなキャッチコピーであるのかといったしそれをタイムスケジュール的に早めに入れた方がいいのではないかと思いますので。

○澤田部会長

ありがとうございます。

○江原委員

ちょっと質問ですが。

○澤田部会長

はいどうぞ。

○江原委員

誘致のためのロビー活動ですが、それに入らなくてはいけない時期だと思います。今二つの部会がありますけど、ロビー活動については、どちらの部会が担当するのでしょうか、あるいは、別の部会を設けてやるということでしょうか。ロビー活動をどうするのか、今、かなり重要な時期じゃないかなと思うのです。テーマの設定もそうですけど、開催権を得ないと元も子もないわけです。まだ、大阪万博開催に関わる国の了解が正式にはとれてい

ませんが、いつでもロビー活動に入れるような準備だけでもしておいたほうがよいのではと思います。例えば、日本国内の各国大使館をどういうスケジュールで、どういうやり方で、誰が誰と説明に行くのかといったリストづくりなどがあると思います。両部会で、これをどういうふうに取り上げていくのかということがちょっと気になったものですから、発言と質問をさせていただきました。

○澤田部会長

事務局の方で説明があれば。

○事務局（政策企画部長）

政策企画部長の山口です。今、現在、この検討会では、基本構想を作っていただくということで、なかなかまだ事務局の方では、まだロビー活動をどう展開するかというところまで考えていくという段階ではないのですが、ただ、今、江原先生がおっしゃっていたように、やはりいいものを作っていいものを広めていくということであれば、やはり活動をしながら考えていくということが必要だと思います。特に、明確に、どこの部会ということで決めているわけではありませんけれども、我々としては、やはりテーマとか事業展開と密接に関わるのかなというふうに考えておりますので。かといって、整備部会でやっていただいたらだめということではありませんが、主にここでご議論いただくのであれば、非常にありがたいということで、先生がたのご了解いただけるのであれば、この場でもご議論をお願いしたいと思っておりますのでよろしくをお願いしたいと思います。

○澤田部会長

ありがとうございました。この部会はとりあえず3回、予定されておりますので、今日がテーマと基本理念、それから次回がそれをどういうふうに関場で事業としてプログラムするか、もしくは広域でもいいんですけれども、それらを考えようと。そして3回目でそれから外れる、今の誘致の活動の問題ですとか、もしくは集客の問題ですとか、そういったテーマとちょっとはずれた話も、みなさんのご意見を賜れるようにすればいいと思うのですが。事務局としてもそういったことでよろしいですか。ありがとうございます。それでは、渋谷副部会長。よろしく申し上げます。

○渋谷副部会長

先程のロビー活動という点からしますと、例えば9月に神戸でG7の保健大臣会合というものがあって、そこには世界中のヘルスに関わる国際機関とかG7各国が来るので、このような議論をサイドでやってもいいのかなというような気もします。それから英語で考えると、常に国際会議の時はテーマを英語で考えるのですが、やはり長寿というのは「longevity」という言葉は、あまり語呂が良くないんですね。例えば、先生がおっしゃっ

たように、「our health、 our future」とか、そういった単純なものの方が実はいいので。テーマを考えるという時には英語というものは、荒川先生がおっしゃったように両方を考えていかないと。日本人だけが議論していても、外には通じないというのがあります。それと最後に、やはり最初に部会長がおっしゃっていたテーマ設定に関して、人類の共通の課題なのか。それからあらゆる国にとって解決策を提案できるのか。それから大阪・日本にとって優位性があるのか。それから国の全体的な政策、健康、成長戦略にあっているのかという観点からすると、やはりヘルスというのは、間違いなくど真ん中なのかなど、今日はみなさんのお話を伺いながら思っておりました。もちろんサブテーマとか、ブランディングとか、コピーとかいうのは、これからでしょうけれども。今日の印象としては、かなり基本構想としてまとめられたものをさらに発展させて、次に向かっていける、いいキックオフになったのではないかなというふうに思っております。

○澤田部会長

どうもありがとうございました。時間があと7、8分というところですので、本日は、これで議論を終了したいと思います。本日いただきました議論につきましては、事務局の方で取りまとめさせていただいて、また皆さんには、チェックをしていただきますが、座長、それから橋爪部会長の方にも、情報を共有しながら、整備等部会も含めて、進めていきたいというふうに思います。

ここで、今日、ご欠席の委員の方々から、資料をいただいている方がございます。資料としてつけています。

○事務局

資料5として、本日、4名の欠席の先生方のうち、3名の先生方からご意見をいただいておりますので、ご覧いただければと存じます。

○澤田部会長

今後、ご欠席された委員の方からもご意見を賜りたいと思っており、いろんな工夫をしていききたいということで、テレビ会議のようなことについては、大阪府にはそういうシステムがないということなので今日はなかったのですが、ある会議室を探してみようとか、特に東京の委員の方々については、私は東京でございますので、個別にお話をお伺いして、それをまた皆さんに意見として戻すということも工夫をしていきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

これで終了したいと思います。それでは、事務局、連絡事項をいくつかお願いいたします。

○事務局

本日はどうもありがとうございました。最後に政策企画部長の方からご挨拶をさせてい

ただきたいと存じます。

○事務局（山口政策企画部長）

本日は、本当に先生方、お忙しい中、また暑い中、この部会にご出席いただきまして本当にありがとうございました。また、沢山の貴重なご意見をいただきまして本当にありがとうございます。どう人類の課題に貢献するのか。そういう万博をどう作るのか。あるいはそれとあわせて、ワクワク感というか、お年寄りから若者まで含めて、どうワクワク感を作っていくのか。あるいは、もっと広域的に、大阪だけではなくて、大阪・関西全体がもっと盛り上がるような仕掛けはどのようなのかというような視点から、様々なご意見をいただきまして。なかなか難しい課題でして、どのことを考えても、なかなか我々役人だけではいい答えが出ないということで、何とか先生方のお力を借りて、いい基本構想案をまとめさしていただきたいと思います。本当に時間がタイトな中で、かなり無理難題をお願いしているかと思えますけれども、時間のない中ではありますけれども、密度の濃いご議論をいただきまして、また、我々事務局もしっかり勉強させていただいて、いいものを作っていきたいと考えておりますので、どうかよろしく願いいたします。本日は本当にありがとうございました。

○事務局

最後に、事務連絡をさせていただきます。次回の全体会議、部会につきましては、事務局の方から改めてご連絡をさせていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。本日の会議はこれで終了ということにさせていただきたいと思っております。本日はどうもありがとうございました。

【閉会】